

地域社会の発展に思い新た

富士宮地区労働者福祉協会の新年の集いで結束固め



鏡開きに臨む小林会長（右から3人目）と来賓

富士宮地区労働者福祉協議会（小林純一会長）の新年の集いが13日、フォレストヒルズで開かれ、会員約110人が和やかに歓談し、

地域社会の発展に思いを新たにしました。

あいさつに立った小林会長は1年間の活動を振り返り、東日本大震災の被災地支援などを柱に、さまざまな社

会貢献活動に取り組んできたことを紹介。あらためて同活動の重要性を指摘した上で「富める一部の人たちだけを作っても社会は良くならない。500万円を稼げる人たちをたくさん作り、社会全体を良くしていかなければならない」などと述べ、同協議会への活動参加と結束を呼びかけた。

来賓の静岡県労働協同組合の平野哲治理事長は、今年に「国際協同組合年」とし、労働協同組合活動

であることを指摘し、他団体と連携して協同組合の社会的認知を高める活動に取り組みいくことを紹介。「閉塞（へいそく）感を打破するため労働組合の出番だということ世の中にアピールし、新しいステージに向かって一歩を踏み出していきたいと思います」と訴えた。富士宮市の菅沢英治副市長は昨年までの「ジャパンの活躍を引こし、日本人は体が小さく1対1のフィジカルでは見劣りするが、組織力を生かした団体戦には強い。労働者が力を合わせる労働協同組合も団体戦。全国に誇れる活動に取り組む皆さんの活動、そして働く人たちが豊かになれるよう市としても支援していきたい」とあいさつした。

引き続き小林会長、来賓ら6人が掛け声とともにたる酒の鏡開きを行い、新年のスタートを祝い、歓談に入った。